

理想の三角関係

～もっと知りたい繋がりたい～

グループ名:UNI

2010/07/09

キーワード列挙

初日の講義で、気になったキーワード

システムの
今後の運営

創造的戦略

ユニバーサル化

ツールとしての
ICT

教職協働

グローバル化

ポータルサイト

情報は使うほど
価値がある

PDCAサイクル

情報の有効活用

WEBを利用した
教育

未来から
現在を見る

学士力の向上

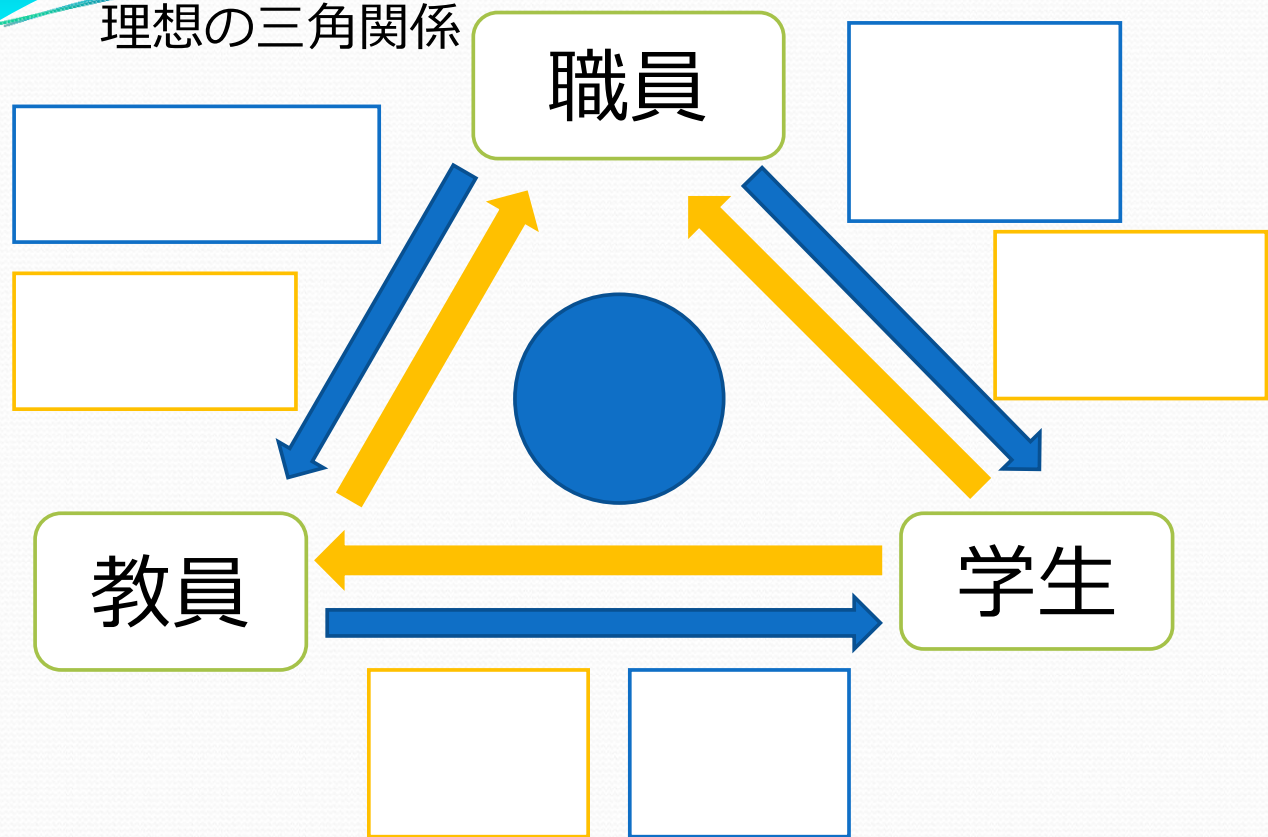
様々なシステムツールはあるけれど
情報は有効に活用されているのか？

情報は使うほど価値がある
せっかくのリソースが無駄になる。

現在の問題点

- ・他課のシステムや予定、業務について知らない。
- ・学生や教職員が情報システム（ポータルサイトなど）の使い方を知らない。
- ・情報に無関心な学生が多い。
- ・情報伝達にタイムラグがある。

理想の三角関係



解決に向けて①

<職員⇔学生>の情報共有

- ・情報の1本化
(閲覧場所を1つにまとめ、内容を重複させない)
- ・ICT活用の説明の場を設ける
(オリエンテーション・情報リテラシー講習会など)
- ・無関心な学生の呼び込み
(学生が必ず見る情報(休講情報)の掲示、紙や掲示板の併用により、利用機会を増やす)

解決に向けて②

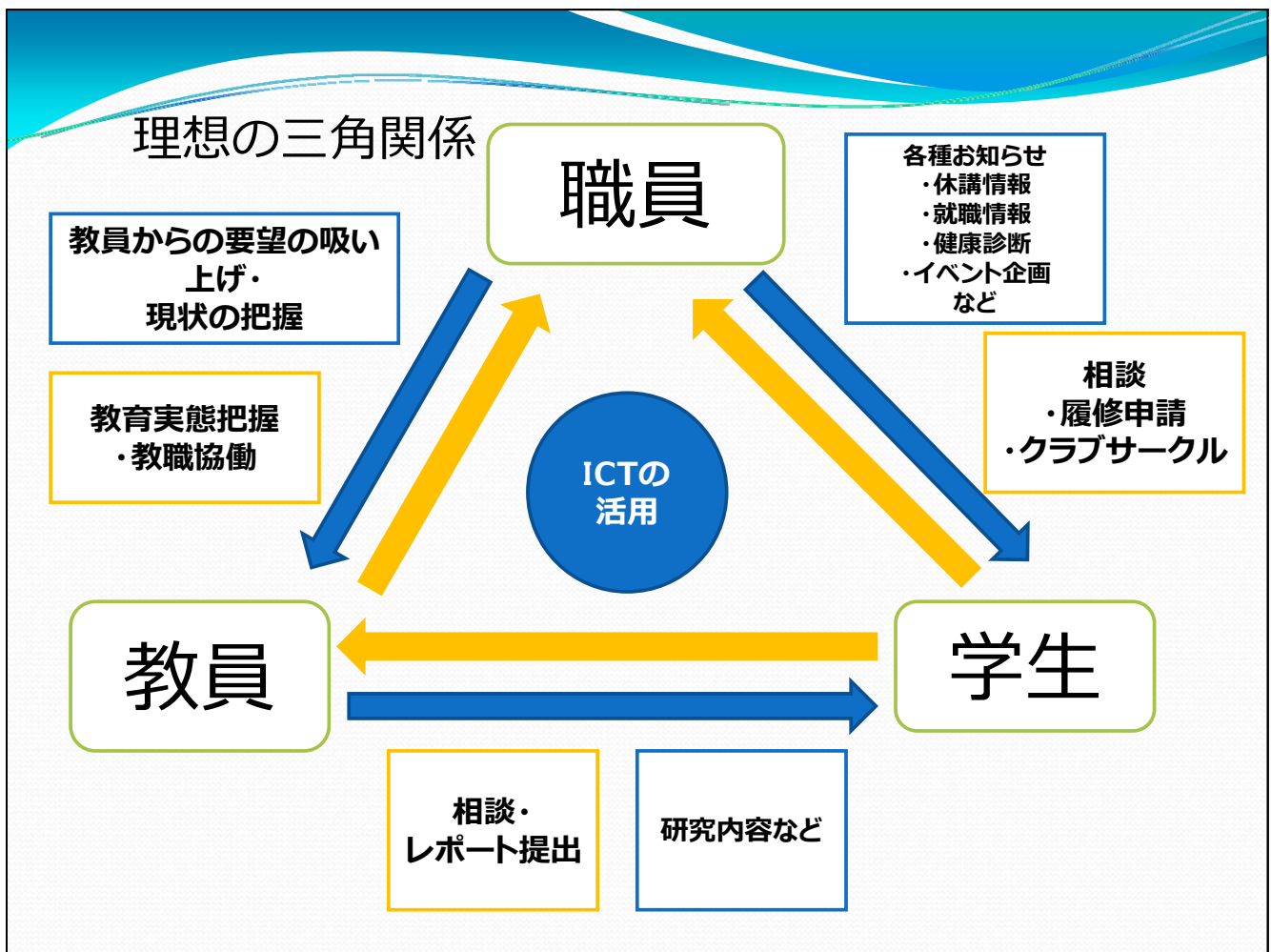
＜職員⇔職員＞の情報共有

- ・自身の情報を残していく
(年間業務、日常業務の記録)
- ・1週間の予定を職員間で閲覧可能にする
(会議や出張の予定など)
- ・各課員の業務分担の情報を共有
(横のつながりを強化)
- ・データ管理の学内共通ルールを決める
(利用しやすくなる)

解決に向けて③

＜職員⇔教員＞の情報共有

- ・教員からの要望の吸い上げ
(投書箱的役割を果たす)
- ・大学の現状把握
(経営面、活動、地域連携)
- ・教育実態把握
(授業評価、面談結果などの学生情報)
- ・教職協働
(意識の共有が重要)



理想の三角関係のメリット

- ・情報が一元化される (明確になる)
- ・学生の活動機会が増える (職員から発信)
- ・細かいフォローができる
- ・横のつながりの強化
- ・教員と職員の意識共有ができる

常にCheckしていくべき事象

- ・利用率の確認 (全学的な利用)
- ・利用者のフォローアップ (研修・情報リテラシー教育)
- ・利用者からの要望を取り入れる (アンケート調査など)
- ・健全な利用と運営の維持 (定期巡視をし、管理の徹底)

理想の三角関係がもたらすものは・・・

**最終的には大学の掲げる目標に
全学的に取り組むことが出来る。**

ユニバーサル化による学生の多様化に対応
情報共有によるワンストップサービスの実現
活動機会創出の増加による社会的能力の向上
連携による学士力育成カリキュラムの創造

ご静聴ありがとうございました。